

絶滅の危惧

このままで日本は絶滅危惧種になっていくようです。国家レベルで「種の起源」の淘汰の法則が厳然として働き、進行していると見れないか。

しかし振り子が振れるように、必ず反転するのであるが限界点を過ぎると困難。

現状は大きな時代の流れ、力が加わっている。それに對し、個人が未踏の道に進み出す勇氣を持ち得られるでしょうか。

破壊を恐れる人がいる。

しかし我が国の繁栄は、破壊があつたからこそ築くことができたのも事実。

明確な目的意識のもとで、再創造はそれほど困難だと思っていない国民ではないのか。

津波・原発災害があつたが、需要はある。カネもある。指導者は財務省の恫喝に屈し、勇氣と「知恵」が足りないだけでしよう。

戦後の復興期の時代ではない。国家の未来像「覚悟」が定まっていなことが、漂流する敗因でないか。よりよい理念が存在し、よりよい国家が存在するのではないのでしょうか。

変化こそ前進

決算書、試算表等、企業の数字はすべて結果です。いくら正しく計算集計しても過去です。過去を後追いして成果・収益が得られればですが、そうはならない。サービスは人によつ

て作られます。サービスのレベルアップ（スピード・付加価値等）は不可欠事項です。人が余剰・余裕があれば指示がなくても、想定を上回るサービスの提供が出来るはずなのです。担当者は工夫の積み重ねと、何気ないちよつとした付加価値の提供が出来る。これらの経験と信頼を積み重ねることにより、担当者は会社や、お客様にとつても無くてはならない存在になります。すなわち仕事の中身が大事

なのではないか。不況こそ絶好のチャンスです。過去の例を見ても内容のしっかりした会社は、大胆に合理化し同業者と大きく水をあける例が多いものです。人件費の伸びより収入の伸びが下回つたら、大きな問題です。欠点を克服する努力も勝利の道です。

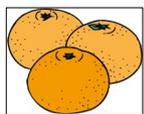


追いカツ求める

人が変わる時、時間配分が変わる。住む場所が変わる。付き合う人が変わる。の三つと何処かで読んだ気がする。この三つの要素でしか人間は変わらないとも書いてある。そして最も無意味なのが「決意を新たにすること」とでもある。凡人の我々の決意など、時間と物理的なものでしか変われな

いのだろう。人は変わらなくてはならない。変わるべきは自分である。常に「なぜか」との問いに、的確に答えられるでしょうか。業績不振の会社に必要なのは新しい発想とビジネスの育成、行動だといふ。

最悪が折衷案の採用です。おしなべて人は、たのまれもしないのにも「方策」を考えているものです。顧客が真に求めるものは「製品」ではなく、「製品」は目的ではなく、幸せと快適さの「手段」にしかならない。追い求める本質は、幸せと快適さでしょう。



(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
 2011年9月30日 (金) NO. 232
 地域から明るい未来を作ろう